

## 介護予防と生活支援の地域づくりフォーラムの周知について

### ■令和7年度 第2回推進会議意見

Ⅰ. 多くの市民にフォーラムに参加してもらうための効果的な周知とは。

#### ①講師の認知度を活用

・講師が有名であるため、「〇〇でお馴染みの」、テレビで観たことがある等、講師を前に出したアピールが効果的ではないか。

#### ②年代や性別に合わせた周知

◎若い世代(子・孫世代)・40～60代・高齢者

・SNS等動画で伝えることができる。(デジタルサイネージ等)

・Instagramを活用し、子・孫世代から参加を勧めてもらうことや一緒に参加してもらうことにつながる。

・高齢者は回覧板などの紙媒体の方が見やすい。(回覧板他)

◎男女別

・女性はラジオを聴くため、有効ではないか。

・昨年度のフォーラムの写真から男性が映っている写真をチラシへ取り入れる。

#### ③自分事と捉えてもらう

・まだ大丈夫だと思っている高齢者が多い。「〇〇をやりたい」「退職後」「人生あるけりゃ夢叶う」「まず動こう!」などのフレーズを入れる。

・周知する内容については実際に地域活動や介護予防活動に参加している人の声や様子がわかるものがよい。

#### ④手法の工夫

・地域活動等への参加がない方への周知が課題なので、イベントや駅等、人が集まる場所でのPR活動が有効ではないか。

・広報いさはやは諫早市内の多くの世帯に配布されているので効果があり、フレイル予防の特集時には介護予防教室の参加者から「特集をみた」という声が寄せられた。



■対応

<p>○チラシ・ポスターの作製</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師をアピール</li> <li>・前向きなテーマ設定</li> <li>・参加しやすいイメージ</li> <li>・目を引く広報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアの先駆者である</li> <li>・TV、新聞の出演や書籍多数である</li> <li>・人生のギアチェンジ～自分らしく歳を重ねるために～</li> <li>・男性写真や住民の声を掲載</li> <li>・デジタルサイネージ利用（諫早駅・諫早総合病院）</li> </ul>
<p>○ラジオ・テレビ・SNS 活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケーブル TV：10月末～CM 放送予定</li> <li>・FM ラジオ：11月放送予定</li> <li>・市公式 LINE：11月発信予定</li> <li>・インスタ：10月に2回投稿</li> </ul>
<p>○イベントの活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコフェスタ、増田明美氏 講演会、介護の日イベントなど</li> </ul>

2. 参加者にフレイル予防・地域活動に関心をもってもらうために何を伝えたらよいか。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・40代など若い世代に伝える事で、親のことを考えるきっかけになる、または自身の健康について早い段階から考えてもらうきっかけになる。</li> <li>・動画であったような予防体操（実技）を取り入れるといいのではないかな。</li> <li>・有名人などの知った人の成功体験（いい事例）があれば興味をひくのではないかな。</li> <li>・本人がやってみたいことを恥ずかしがらずに伝える、やってみたいと希望を持てるような講演になればいい。</li> <li>・早くから取り組むことの重要性を伝えてほしい。</li> <li>・どんな事をききたいか。聞きたい身近なこと等意見を出し合う。市民からの意見や声を事前にもらって講師に伝えてはどうか。自分が聞きたいことに対して、講師からの話が聞けるのであれば「参加したい」と思うのではないかな。</li> </ul>
---



■対応

<p>○参加者の関心事を把握</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加申し込み時に把握（チラシに項目作成・受付対応時に聞き取り）</li> <li>・講演内容への反映を依頼</li> </ul>
--------------------	--